渡辺容子さん

田中香苗さん

渡辺奈々さん

風間佐智子さん

教育委員会賞

求めていた言葉

風間佐智子（第二中3年）

私が十四年間生きてきたなかで、いつも側にいてくれた人、それはあたり前のように周りにいた友達です。そして、一番私に喜びと悲しみ、嫌なこと、楽しいことを与えてくれたのも、教えてくれたのも友達です。ただ、友達といってもさまざまな友達がいます。何でも話せる親友、遊びだけの仲間、そして苦手な友人など、それぞれの人の性格によってつき合い方が違います。私の中学校生活で、苦手だった人達は数多くいます。ところが、その人達が、今の私にはとても大切で、何物にもかえがたい存在になったのです。

私はこれまで、バレー部に所属し、主将という大きな役割を担って二年と二カ月、数少ないバレー部の仲間たちと一緒にバレーをしてきました。わずか九人という小さな集まりでしたが、仲はあまり良いとは言えませんでした。部活中ちょっとでも嫌なことがあると、にらんだり、悪口を言ったりと、今にも仲間割れしそうでした。二年生の一学期、三年生が引退したのち、私は先輩方から推薦され、主将になりました。私にとっても、主将とは憧れの存在でしたが、ただ一つ気になることがありました。というのも「ほかのみんなは私が主将でいいと思っているのだろうか」と考えたからです。先輩方の推薦であっても、みんなの推薦でなければ、私にはついてきてくれないかもしれないという、不安がこみ上げてきたのです。バレーボールは六人が選手としてコートに入り、競技するスポーツです。個人としてのプレーも大切ですが、なんといってもチーム全体が一つにならなければ、決して勝利を得られないのです。だからこそ中心となる主将が、みんながら信頼を受けていないと、バラバラになってしまう恐れがあるからです。

新主将としての緊張の中で迎えた部活動初日、私たちが苦手としている長距離の競走から始まりました。案の定、みんなの口からは、不平不満の声があがりました。けれど私は、その言葉にはとりあわず、早く外に出るように注意したのです。その時、

「キャプテンだからってはりきらないでよ。」と友達からの一言。相手は軽く言ったつもりかもしれませんが、私にとってはすごく重荷になる一言でした。コート内の練習でも、私はみんなの立場から見れば、いやな主将だったと思います。そうです。私は嫌われ役になったのです。私自身にとっても、友達をしかったり、注意したりするのは、とてもつらい役目でした。それになんと言っても、私はエースアタッカーではなかったのです。けれどある日の大会の帰り、つき合いづらいと思っていた仲間が、発車時間直前に忘れた傘を取りに戻るといいました。でも、もう時間がない。しかし、私は思い切って言いました。

「私も一緒についていく。」

その子と一生懸命二人で走りました。傘を手に握りしめ、ゆれるバッグを背中にしょって急いでひターン。でも、もう電車がきている。私たちは力を振り絞って走り、やっと着いた駅には、もう発車してもいいはずの電車がまだ止まっている。不思議に思って、駅の階段をかけ足でのぼると、

「すみません。あともう少しだけ待ってください」

とバレー部のみんなが声をはり上げて、駅員さんに頼んでいたのです。私たちは急いで電車に乗り込むと、みんなは

「すみませんでした。ありがとうございました。」と駅員さんにお礼をいいました。私たちのために電車を止めてまで待っていてくれたのです。こんなこともあって、あの仲があまり良くなかったバレー部が少しずつまとまりかけてきたのです。それに傘を忘れた友達が

「佐智子が友達でよかった。」と言ってくれました。この一言が私をどんなに喜ばせたでしょう。

最後の大会も終わり、引退式の日がやってきました。あんなに嫌がっていた部活なのに、なぜかみんなの目に、涙が見られました。その時、何人かの友達が言ってくれました。

「佐智子が主将でよかった。佐智子がいなかったら、このチームはなかった。」

主将をしていた私がどんなに心の中で求めていた言葉だったでしょう。不平を言われたことなんて、ほんの一時の苦しみでしかなかったのです。仲が悪く、まとまりがなかった私たちに友達とは何か、仲間とは何か、教えてくれたのは、一体何だったのでしょうか。

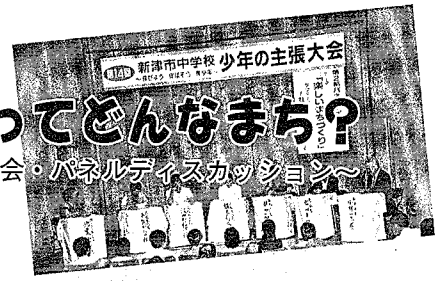
バレー部の仲間は、私が本当に求めていた言葉を言ってくれました。それに、求めていたのは、その言葉と同時にその仲間の存在だったと思います。みなさんには、こんな友達がいますか。

「みんなと友達になれてよかった。」私にはいます。こんなに素晴らしい仲間が。

楽しいまちづくり

楽しいまちってどんなまち？

～少年の主張大会・パネルディスカッション～



鎌田和則さん（新成人代表）

少年の主張大会では、「楽しいまちづくり～社会環境を考える～」をテーマに、パネルディスカッションも行われましたので、各パネラーの発言要旨をご紹介します。

人々の温かさがあり心落ち着きます

鎌田さん　二十年間生活してきて、まち自体は小さいですが、のどかで田園があり、心落ち着くものがあります。今あるいじめ問題も、新津の人たちが力を合わせることが大切なのでは。せめて、この新津からはいじめがなくなればと思います。

平賀さん　友達と買い物するときは新潟へ行きます。新津では買い物しないし、遊びません。大きなショッピングセンターがあればいいなあと思います。

波田野さん　鹿瀬町から通学していますが、やはり新津のまちは交通機関がいいです。新津にも自然や緑が多いですが、鹿瀬の方がそのままの自然が多いです。

平賀かおりさん（新津南高）

福田幸一さん（更生慈仁会評議員）

植木さん　フラワーロードは市民の方たちが植えて育てた花なので、より美しく見えます。だから、新津は花とみどりのまちという感じがします。それに、人と人とのつながりが強く、温かみがあり、住み良いまちだと思います。

各々の個性を大切に認め合うまちへ

福田さん　私たちが生活している場所を考えるとき、隣近所とうまくつき合うことが、楽しいまちにつながります。隣近所で住み良いまちをつくる、お互いの個性を認め合うことが大切です。また、若者たちが自由に会い、語り合える場（ミニプラザ）があれば、そこから文化が伝達されていきます。新津の価値観、家庭の価値観、個々の価値観を持つことが必要です。

波田野和洋さん（新津工高）

小林市長　若い人たちはストレスが溜まっています。そういう意味でショッピングセンターは、生きがいやストレス解消につながる都市サービス施設といえます。楽しいまちとは、参加していい汗が流せる、喜びを感じる、そしてそこから大きな輪が広がるまちを指します。新津らしさを大切にして、そこへ新潟の人たちが遊びに来ればいいし、市民は新津にないものを周囲に求めればいいかと思います。まちの境をなくし、広域的に考えてみなければなりません。

小林一三市長

植木利衣さん（新津高）

お買物、ご用命は市内で

健康家族
薬なら新津薬局
保険調剤（各科病・医院の処方せん受付）
ツムラ漢方薬・ツムラ化粧品・健康食品
新津駅前本店（24）6311
おぎかわ駅前店（24）6322

書道教室
（毛筆・ペン字）
■ 月・水・金曜日
・午後 1：00～6：00
・夜間 7：00～9：00

さつき野

学研教室
（算数・国語・英語）
■ 火・土曜日
・午後 3：30～7：00

北上1―12―14 TEL（23）2497